

# 時局に思う

日本遺族会会長

参議院議員

## 水落敏栄

先月末、天皇后陛下はフィリピンをご訪問されました。陛下は皇太子時代より昭和天皇の名代として各地を訪問され、即位後は、戦後五十年に長崎や広島を訪問された後、長くお気持ちにあった海外での戦没者を慰霊する「慰霊の旅」を始められ、戦後六十年のサイパン島に



宋水落敏栄氏（参議院議員）が1月29日、フィリピン・カラヤで両陛下をお迎えする。

始まり、戦後七十年の昨年はペリリュー島、そしてこの度、フィリピンを訪問されました。

私は、出発前に御所へ招かれ、フィリピンの遺族代表と共に、両陛下へご接見する機会を頂きました。両陛下は、遺族の戦後

の歩みを静かに聞き入れられ、遺族の現在の様子やご遺骨の収集の状況を熱心にお聞きになりました。そして「これからご遺族のお世話をお願いします。」と深々と頭を下げられました。私ども一同は、涙があふれて止まりませんでした。

陛下はアキノ大統領主催の晩さん会において、先の大戦で多くのフィリピンの人々が犠牲になったことに触れられ、「日本人が決して忘れてはならないこと」と述べられ、日本フィリピン両国の戦没者に慰霊をされるお気持ちをお話しになりました。先の大戦の激戦地であった

フィリピンでの日本人戦没者は海外で最多の五十一万八千人余り、またフィリピン人の戦没者は百十一万人にのぼり、両国に多くの犠牲があつたことは言うに及びません。

フィリピンには現在もおよそ四百の慰霊碑がありますが、戦友、遺族の高齢化で管理が十分とは言えない中で、現地の方々の好意により保存されているものもあると聞きます。戦争は悲しみしか生みません。しかし、現地を訪れる遺族や戦友の亡くなった方への思いや平和を願う心情が、長い年月をかけて現地の方々の気持ちをほぐし、今日の友好関係を生んだのではないのでしょうか。

昨年の天皇誕生日の会見で陛下は「先の大戦のことを十分に知り、考えを深めていくことが、日本の将来にとって極めて大切」とお話しになり、戦争が風化さ

れている現状に危惧を示されました。齢八十歳を超えてなお、慰霊の旅をお続けになられていくことは、こうしたお気持ちに他ならず、誠に感謝にたえません。戦没者遺族を代表し心より感謝申し上げます。

慰霊に終わりはありません。この国の礎に多くの尊い犠牲があつたこと、そして戦争の悲惨さ平和の尊さを後世に語り継ぐのは、私たち戦没者遺族の責務であると決意を新たにいたしました。

故に私は戦争の風化を防ぐため、平和の語り部の後継者となる戦没者の孫、ひ孫の皆さんを遺族会組織に参画してもらい、永遠に平和を希求する遺族会活動が続けられるよう、これからも精進努力して参りますので、皆様方には引き続きご指導ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。